

タシロマメ

ぜつめつ き ぐ
絶滅危惧IA

か めい
科名 マメ

べつ めい
別名 シロヨナ

がく めい
学名 Intsia bijuga



く ぶん
区分 木本類

ぶん ぶ
分布 西表島、石垣島

は かたち
葉の形 楕円形、円形

は ぶち
葉の縁 全縁

は さき
葉の先 鈍形

は しゅるい
葉の種類 偶数羽状複葉

は つきかた
葉の付方 互生

は き ぶ
葉の基部 円形

み しゅるい
実の種類 豆果

は な がくいろ
花・萼色 白色、淡い紅色

せつ
説明
かいがん かこうちか ていち は たか ぐらい じょうりよく こうぼく は ぐうすう うじょうふくよう
海岸や河口近くの低地に生え、高さ 15m 位になる常緑の高木です。葉は偶数羽状複葉
しょうよう まい うす かくしつ こうたく はな しろう あわ べにいろ えださき ざい
で小葉は 4 枚、薄い革質で光沢があります。花は白または淡い紅色で枝先につきます。材が
かた つよ けんちくざい りよう めいじしよき げきげん
堅くシロアリに強いことから建築材などとして利用されていましたが、明治初期までに激滅
しました。